# 令和６年度 事業計画

# 岡山理科大学附属中学校

子どもたちが学習や学校活動に集中して取り組む中学校教育の場を提供します。難関高校進学の道を開くとともに、これからの社会の中で活躍できる人格を育みます。

現代社会は、経済や社会の構造がダイナミックに変化し、科学技術が加速度的に発展するとともに、情報や文化のグローバル化が進展しています。このような環境下では、従来の価値観や経験、習慣、常識だけでは対応しきれない多くの新しい課題が生じています。新型コロナウイルス感染症のパンデミック、社会生活のデジタル化、生成 AI の実用化などは、私たちが直面する新たな変化の具体例です。これらの状況に対応するため、既存の知識や技能の伝授に留まらず、未知の状況にも対応できる思考力や判断力、さらには学びを活かす意欲を持った人間性の育成を目指す教育改革が、幼稚園から高校にかけて推進されています。

「社会に貢献できる人材の養成」を建学の理念に掲げる加計学園では、これからの社会を支える人材を輩出するため、学園全体で将来像を共有し、結束して取り組む５カ年計画を策定しています（加計学園ビジョン 2026)。本校では、中学校教育の一環として、安全で安心して学べる環境を提供し、その中で思考力や判断力、さらには意欲を持って仲間と協働して学ぶ能力を育成する教育に取り組んでいます。

本年度の事業計画では、以下の項目に取り組んでいます。

**Ⅰ．教育の推進**

1）学力を定着・向上させるための対応

2）自らを律する人格の形成と基本的な学習生活習慣の確立

**Ⅱ．生徒の支援**

1）生徒の多様な資質や希望に応える進学ルートの設計

2）生徒支援・指導体制の充実

**Ⅲ．地域社会との連携**

**Ⅳ．国際化の推進**

**Ⅴ．DX の推進**

**Ⅵ．ガバナンス体制と内部質保証システム**

**岡山理科大学附属中学校　校長　田原　誠**

## Ⅰ．教育の推進

### １．学力の定着・向上についての目標

| 中期計画 | 事業計画 |
|---|---|
| ［1］学力の定着・向上についての計画<br>1）進路志望への対応<br>進路志望に対応したクラスやカリキュラム、さらに教育内容の最適化を進めて生徒の志望に応じた指導に取り組む。 | ［1］クラス編成と教育目標<br>卒業後の多様な進路志望に対応できるSR(Special Route)コース＊を設定して教育を進めます。生徒には進路をしっかり考えて選択させ、それぞれが進む道を実現する学力の養成に努めます。<br>【SRコース＊：難関県立高校等をめざす3年間ルート、附属高校で学び国公立や難関私立大学をめざす6年間ルート、附属高校から岡山理科大学等の関連校に進学する10年間コースを示す。】 |
| | ［2］共通の教育目標<br>適切な学習習慣の定着に深く関わる人格的な要素を育成します。校訓「立志三風」に基づく指導により、自らを律し、目標を持って主体的に頑張る生徒、真心で他人と協働できる生徒を育てます。 |
| 2）思考力・表現力などの養成<br>論理的な思考力や表現力を育む授業をカリキュラムに取り入れる。また、一人一台端末の機能を十分活用する授業を実施する。 | ［3］カリキュラム<br>教科学習の時間を増やすことで基礎学力の充実を図っています。難関公立高校や難関私立高校への進学を目指す生徒には、進学に必要な学力を養成します。また、高校で求められる、自分の考えをわかりやすく説明できる力の養成に努めます。さらに、探求活動を推進し、科学的・論理的な思考能力を高めます。 |
| | ［4］論理力向上のための取り組み<br>国語授業の中で「論理エンジン」を副教材として取り扱い、論理的な文章構成の把握や文章作成の能力を養います。論理的思考力・表現力は、外部試験（「Literas論理言語力検定」や「作文検定」）により生徒の達成感を導きながら、その定着を進めます。 |
| | ［5］GIGAスクール構想への対応<br>校内の高速インターネット環境の整備と合わせて導入した生徒一人一台の端末を活用して、プログラミング等のICT教育や対話型の学びの実践に取り組みます。 |
| 3）授業改善のための教員の教える力の改善<br>授業改善のために必要な教員研修を実施する。 | ［6］授業改善<br>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業やGIGAスクール構想などのICTを活用した授業方法、生徒の成績評価方法などの教職員研修会を定期的に実施します。また、クラウド型校務支援システム（BLEND）を活用して教員間や保護者との情報交換を促進します。<br>さらに、教員の教育力強化のため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176との連携を継続します。 |
| | ［7］教科会議・学年団会議の強化・連携<br>各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取り組みを推進し情報を共有することで、指導力の向上を進めます。<br>また、学年団会議ならびに中学校担任会議において、生徒の情報を共有することで、的確な指導を行います。 |

### ２．人格の形成と学習生活習慣の確立の目標

| 中期計画 | 事業計画 |
|---|---|
| ［2］ 人格の形成と学習生活習慣の確立の計画<br>学校行事などの機会を通して、校訓や教育方針の積極的な指導を行う。また、服装と挨拶の励行を指導する。 | ［8］校訓<br>加計学園建学の理念の下、「立志三風」を掲げ、また、「生活三則」の指導に取り組んでいきます。<br>立志三風<br>一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）<br>一、振気・勉学の良風を尚ぶ（努力）<br>一、忠恕・爽凜の美風を養う（友愛）<br>生活三則<br>一、場を清めましょう<br>一、時を守りましょう<br>一、礼を正しましょう |
| | ［9］服装指導の実施<br>「凜とした爽やかさ」をモットーに、TPO に合わせて、清々しさを持った着こなしを指導します。 |
| | ［10］挨拶の励行<br>朝のあいさつ運動や職場体験などを通し、気持ちを込めて挨拶ができるように、また、相手や状況に応じた正しい言葉遣いができるように指導します。 |
| | ［11］共通の教育目標<br>校訓「立志三風」の指導により、甘えを捨てて困難を乗り越える生徒、目標を持って主体的に頑張る生徒、真心で他人と協働できる生徒を育てます。<br>「生活三則」に則り、基本的な生活習慣を確立した上で、集団の中で協力しながら活動できる力を身につけるよう指導します。 |
| | ［12］将来につながるリーダーの育成<br>体育祭、爽凜祭（学習発表会）、球技大会など様々な学校行事は実行委員の生徒が主体的に運営します。また、このような学校行事は、生徒会が統括します。生徒はこのような自主活動の中で企画力、実践力、思考力、協働して取り組む力などを高め、それぞれの人間形成に繋げます。 |

## Ⅱ．生徒の支援

### １．生徒の多様な資質や志望に応えるための目標

| 中期計画 | 事業計画 |
|---|---|
| ［3］ 生徒の多様な志望に応えるための計画<br>生徒の志望に沿って、体系的に学習し、体験する機会を提供し、各自のキャリア実現に求められる学力や能力を育成する。 | ［13］学習計画の指導<br>「今未来手帳ジュニア版」を活用して、毎日記録を残し、継続的に振り返ることで、自らを客観的に捉え行動に反映させる力を育てます。また、「自分史プロジェクト」と題して、さまざまな活動についての振り返りをまとめ、ポートフォリオが作成できるよう指導します。 |

### ２．多様な生徒の支援に関する目標

| 中期計画 | 事業計画 |
|---|---|
| ［4］　多様な生徒の支援に関する計画<br>健康管理や学校生活及び家庭生活における具体的な相談や指導に対応するため、生活支援体制を更に充実させる。 | ［14］家庭、地域社会との協力・連携強化<br>毎日の「今未来手帳ジュニア版」の確認などを通じ、家庭学習の計画力の養成を行い、生徒の学校生活や地域および家庭での生活などをサポートします。 |
| | ［15］教育相談室・保健室との連携<br>思春期である中学生期を心身とも健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化して生徒の指導を進めます。 |

## Ⅲ．地域社会との連携

### １．良好な社会的関係構築に関する目標

| 中期計画 | 事業計画 |
|---|---|
| ［5］良好な社会的関係構築に関する計画登下校時の中学生としてのマナー順守を徹底する。 | ［16］家庭、地域社会との協力・連携強化<br>中学生専用定期バスの乗車指導・通学指導など登下校指導の実施、毎日の「今未来手帳ジュニア版」の確認などを通じ、生徒の地域および家庭との良好な関係を構築します。 |

### ２．地域教育の目標

| 中期計画 | 事業計画 |
|---|---|
| ［6］　地域教育の計画<br>教育活動やマナー指導を通して、地域社会との関りの重要性を生徒に説明する。 | ［17］社会規範育成への取組<br>外部講師による講演などを活用し、規範意識の啓蒙に努めます。学校独自の規則だけではなく、アクティブラーニングやプレゼンテーションの指導を通じ、その場の状況に最も適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導や話し合いを行います。 |
| | ［18］情報教育<br>生徒のインターネットリテラシーの現状を踏まえ、情報モラルの向上に努めます。その一環として岡山県警察本部より講師を招き、「インターネットモラル教育」の講演を実施します。また、SNS 等での個人情報の適切な扱いを指導します。 |
| | ［19］塾との関係の強化<br>中学校入試における私塾の影響力は大きく、塾からの情報把握と本校からの塾へのタイムリーな広報活動は、受験・入学者の確保に欠かせません。塾との対話は、入試広報の専任教員が引き続き一元的に対応することとし、塾から信頼される関係を構築します。<br>さらに、入試結果を踏まえた塾対象の入試説明会を実施します。 |

## Ⅳ．国際化の推進

### １．国際力向上の目標

| 中期計画 | 事業計画 |
|---|---|
| ［7］ 国際力向上の計画<br>全クラスで英会話授業を実施し、英検やケンブリッジ英検での取得目標を学年ごとに提示して、英語力の向上を進める。また、附属高校で実施されている国際バカロレア教育を取り入れた活動を実施する。 | ［20］英会話<br>「総合英語」の授業の中で、英会話を 1～3 年生の全クラスで実施し、自ら積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養います。また、4 技能（聞く、話す、読む、書く）に対応したケンブリッジ大学英語検定機構が発刊するコースブック・英語教材を使用し、SDGs について英語のテキストで学びながら社会意識の向上を図ります。 |
| | ［21］実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施<br>(1) 1 年在籍生徒の 9 割以上が 5 級以上の取得を目標とします。<br>(2) 2 年在籍生徒の 8 割以上が 4 級以上の取得を目標とします。<br>(3) 3 年在籍生徒の 6 割以上が 3 級以上の取得を目標とします。<br>(4) 教員が生徒に対し、積極的に受験指導を行います。 |
| | ［22］希望者にはケンブリッジ Key Test を実施<br>(1) 1 年修了時には CEFR の A2 レベルをクリアすることを目標にします。<br>(2) 2 年修了時には CEFR の B1 レベルをクリアすることを目標にします。<br>(3) CEFR の B1 レベルをクリアした生徒には B2 レベルの受験を勧めます。 |
| | ［23］国際バカロレア教育の活用<br>附属高等学校で実施されている国際バカロレア教育の手法を取り入れ、課題に対して論理的・批判的に考えて研究する取り組みを設けます。 |

## Ⅴ．ＤＸの推進

### １．ICT 活用に関する目標

| 中期計画 | 事業計画 |
|---|---|
| ［8］ ICT 活用に関する計画<br>ICT 活用推進のための FD 実施及び各種証明書の申請手続きのｗeb 化を図る。 | ［24］教職員研修<br>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業や GIGA スクール構想などの ICT を活用した授業方法、成績評価方法などの教職員研修会を定期的に実施します。 |
| | ［25］申請手続きの Web 化<br>各種証明書の申請手続き Web 化のための各種方法を調査し、比較検証します。 |

## Ⅵ. ガバナンス体制と内部質保証システム

### １．学校運営の改善及び効率化に関する目標

| 中期計画 | 事業計画 |
|---|---|
| ［9］ 学校運営の改善及び効率化に関する計画<br>校長がリーダーシップを発揮できる環境を充実させるため組織及び運営の改善を継続的・恒常的に実施する。 | ［26］学校運営会議の強化<br>附属中学校は、今年度から高校生の学年がなくなり、附属高校とは生徒の学年進行で結びつく組織となります。このため、今年度は中学校と高校の垂直的な結びつきを十分に機能させるための学校運営方法を検証していきます。学校運営については、引き続き、校長、教頭、事務部長、並びに校務分掌の課長で組織する運営会議において、学校業務の企画立案および連絡調整を実施します。また、附属高校の学校運営会議に附属中学校の管理職が参加し、附属高校との合理的・一体的な運営を進めます。 |

### ２．教育の質保証に関する目標

| 中期計画 | 事業計画 |
|---|---|
| ［10］ 教育の質保証に関する計画<br>アクティブラーニングの導入や IB 教育の理念を取り入れた授業を実施することにより効果的な教育方法・教育内容を充実させる。 | ［27］授業改善　（［6］再掲）<br>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業や GIGA スクール構想などの ICT を活用した授業方法、生徒の成績評価方法などの教職員研修会を定期的に実施します。また、クラウド型校務支援システム（BLEND）を活用して教員間や保護者との情報交換を促進します。 |
| | ［28］国際バカロレア教育の活用<br>附属高等学校で実施されている国際バカロレア教育の手法を取り入れ、課題に対して論理的・批判的に考えて研究する取り組みを設けます。 |

### ３．内部質保証に関する目標

| 中期計画 | 事業計画 |
|---|---|
| ［11］ 内部質保証に関する計画<br>内部質保証を充実させ、組織運営の改善に活用するため、的確な評価指標を設定し、適正な個人評価（教員活動評価）を実施する。 | ［29］生徒による授業評価・教員自身による授業評価<br>確かな学力を育むために、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのかを知り、生徒の側から捉えた授業改善を進めるとともに、教員が自己評価を行いながら改善点を明らかにして、授業改善に活かします。 |
| | ［30］生徒・保護者・第三者による学校評価<br>学校教育活動が教育目標の実現のため適切に行われているかについて、生徒・保護者ならびに第三者による外部評価を踏まえてさらなる改善を図ります。 |

**４．財政基盤の強化に関する目標**

| 中期計画 | 事業計画 |
|---|---|
| ［12］　財政基盤の強化に関する計画<br>　経費を抑制するため財務情報等を活用し、財務分析を行うことにより業務の現状を検証し資源配分の重点化や経費削減など、より一層の効率化を実現する。 | ［31］財政基盤の強化<br>　円滑な学校運営を進めるため、定員の確保を優先課題として本校の広報活動を展開します。特に、塾教員への理解を高め、入学者を安定的に確保していきます。財政的に体力のある組織を構築するため、将来を見据えた改革と選択を進め、人件費、教育研究経費、管理経費の適正化に取り組んでいきます。 |

| 主な行事予定 | |
|---|---|
| 4 月 8 日 | 始業式 |
| 4 月 9 日 | 入学式 |
| 4 月 25 日 | 健康診断 |
| 5 月 11 日 | 授業参観 |
| 5 月 22 日～24 日 | 修学旅行 |
| 9 月 14 日 | 体育祭（岡山ドーム） |
| 10 月 26 日 | 爽凜祭（学習発表会） |
| 12 月 16 日 | 百人一首大会 |
| 1 月 31 日、2 月 1 日 | 校外活動 |
| 3 月 12 日 | 卒業式 |
| 3 月 19 日 | 終業式 |

## 学生数・教職員数

### ■在籍生徒数

（令和6年5月1日現在）

| 学校名 | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員 | 在学者数 |
|---|---|---|---|---|
| 岡山理科大学附属中学校 | 80 | 80 | 240 | 253 |

（単位：人）

### ■教職員数

（令和6年5月1日現在）

| 校長 | 教頭 | 教諭 | **教員　計** |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 12 | **14** |

| **事務職員** |
|---|
| **1** |

※校長は附属高等学校と兼任

（単位：人）

## 財務関係

### ■事業活動収支

（単位：千円）

| 科目 | | 年度 | 令和６年度予算額 | 令和５年度決算額 |
|---|---|---|---|---|
| 教育活動収支 | 収入 | 学生生徒等納付金 | 136,202 | 130,167 |
| | | 経常費等補助金 | 70,282 | 67,712 |
| | | その他収入 | 7,685 | 7,576 |
| | | 計 | 214,169 | 205,455 |
| | 支出 | 人件費 | 161,973 | 145,561 |
| | | 教育研究経費 | 60,244 | 52,213 |
| | | 管理経費 | 8,652 | 13,370 |
| | | その他支出 | 0 | 431 |
| | | 計 | 230,869 | 211,575 |
| 教育活動収支差額 | | | △ 16,700 | △ 6,120 |
| 教活外 | 収 | 受取利息等 | 0 | 0 |
| | 支 | 借入金利息等 | 0 | 0 |
| 教育活動収支差額 | | | 0 | 0 |
| 経常収支差額 | | | △ 16,700 | △ 6,120 |
| 特別 | 収 | 資産売却差額等 | 0 | 0 |
| | 支 | 資産処分差額等 | 0 | 0 |
| 特別収支差額 | | | 0 | 0 |

| | | |
|---|---|---|
| 基本金組入前収支差額 | △ 16,700 | △ 6,120 |
| 基本金組入額合計 | △ 200 | △ 3,206 |
| 当年度収支差額 | △ 16,900 | △ 9,326 |

### ■財務改善に向けた取組

今後、岡山県内の１２歳人口が急速に減少することを踏まえ、安定的な学校運営を行うためには定員の確保が最優先課題であり、受験生のニーズに沿った募集活動はもとより、在校生の満足度を上げる必要がある。募集活動においてはオープンスクールや入試だけでなく、学校の情報をホームページ、Facebook や Instagram でも、迅速に幅広く提供し、さらに中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな情報発信をする。在校生について教育活動はもとより思春期である中学生期を心身ともに健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化する。また、SR コースの導入計画が完成し、中学校教育だけを担う学校組織となったので、難関県立高校等の進学を目指す３年間ルートでの実績が入学生確保の鍵となるので、その充実に努める。

### ■施設設備整備報告

令和６年度においては施設改修、大型設備の設置予定なし。